

——今の仕事を始めたきっかけを教えてください。

**山口** 原木しいたけを作り始めたのは平成16年のことです。夫の父親が持っていた山があつて、偶然そこを訪れたしいたけ農家さんに「しいたけを作るのに適している、作ってみたらいいの」と言われたのがきっかけですね。夫婦どちらも、知識や経験はゼロの状態でしたが、それが逆に抵抗感を感じさせなかったのかもしれない。

最初は副業として始めようとした。けれど、始めてみたら夫の本業と繁忙期が重なってしまつて。それに、自然を相手にする仕事ですから、片手間にやるようなものじゃないと感じ、しいたけ一本にしました。大変ですが、とてもやりがいがある仕事だと思っています。

しかし、最近はいちたけの需要そのものが減ってきてしまつていて。これは自分たちからもアクションを起こさないといけないと思い、体験型観光農園を始めました。しいたけを栽培するなかで実感した、自然や環境との関わり大切さをお客さんにも伝えて、しいたけに付加価値をつけたいと思つたんです。そして、しいたけ作りの体験だけでなく、国東市に滞在し、いろんな場所を観光してもらうための拠点も作りたいと思つて、民泊も始めること

にしました。

——子育てと仕事はどのように両立していますか？

**山口** 周りの方々の助けを借りながら、バランスをとつて両立しています。

しいたけ栽培を始めたばかりのころは、まだ上の子たちが小さかったんです。けれど、夫の母や、保育園の先生たちに助けていただいて、両立ができました。三人目を妊娠したときには、近所の方々が収穫作業などを手伝ってくれました。おかげで仕事が滞らなかつたので、とてもありがたかつたですね。

今は娘が市外の学校に通い、部活動を頑張つてゐるんです。観光農園と民泊は土日の体験・宿泊ができないんですが、これは娘のために時間をとりたいから。送迎だけでなく、土日は部活の試合があることもありますから、その応援に行きたい。頑張つてゐる姿からは活力ももらえますからね。

母からはよく「何のために働いてるか」ということ、おざなりにしたらいいん部分つていうのを考えながら働きよ」と言われています。それはとても大事にしていますね。

——ジェンダーによる悩みを感じたことはありますか？

**山口** 実は、あまり感じたことがないんです。ジェンダーは関係なく、自分



ができることをやっているからかもしれません。

しいたけ栽培の中にも様々な仕事がありますから、「女だから・男だから」というより、「私が得意なこと・夫が得意なこと」というような役割分担をしています。お互いに補い合つて、それぞれの力を発揮するというのが自然な流れでした。

——国東で起業や働くことを目指している女性へのメッセージをお願いします。

**山口** 起業する、働くことを目指している方なら、やる気は既に持たれていると思います。あとは、何をモチベーションにするのが大事です。私の場

合は「私がやらなきゃ」という『勝手な使命感』と、協力していただいた方たちへの感謝の気持ちです。協力していただいた分、自分もまた人の役に立てるように頑張りたい！ それらが私の原動力ですね。

それから、他の人もどんどん巻き込んでいくことが大事です。自分一人じゃできないことは必ずあります。自分の不得意を補ってくれる人を見極めて、遠慮せずに声をかけてみてください。頑張っている人に共感してくれる人たちは必ずいます。一人で頑張らず、誰かに頼つていくと、必ず前に進んでいきますよ。



## ジェンダーは関係なく 自分ができることをやる

国見町出身。  
平成16年に夫婦で新規就農し、原木しいたけを栽培。直販している乾しいたけは市内外で高く評価されている。  
この春、新たに体験型観光農園『杜の台所』を開園。挑戦を続けている。